

午後Ⅰ試験

問1

問1では、過去に経験のない新たな価値の創出を目指すシステム開発プロジェクトを題材に、価値の共創を目指すプロジェクトチームの形成、チームによる自律型マネジメントの実現及び発揮するリーダーシップの修整について出題した。全体として正答率は平均的であった。

設問1(3)は、正答率がやや低かった。F氏が指示型リーダーシップの発揮を控えようと考えたのは、“メンバーそれぞれが前向きな姿勢であり自分なりの意見をもっている”という状況をヒアリング結果から得たからであり、この点を読み取って解答してほしい。

設問2(1)は、正答率がやや低かった。“Xプロジェクトにおける目標の設定をする”のような、下線部や設問文に記載されている内容を抜き出した解答が散見された。“Xプロジェクトにおける目標の設定”に当たっては、メンバーそれぞれの、提供する体験価値への思いを統一し、共有することが重要であることを読み取って解答してほしい。

問2

問2では、顧客が求める価値の変化に対応するシステム開発プロジェクトを題材に、変化に対応する適応力と回復力の重視への転換を目指した、協力会社とのパートナーシップの見直しについて出題した。全体として正答率は平均的であった。

設問2の正答率は平均的であったが、“顧客から何度も細かな報告を求められる”、“チームが強い監視下に入り、メンバーの士気が低下する”など、顧客へ伝達した際の事象を記述した解答が見られた。

設問4(2)は、正答率がやや低かった。“適応力と回復力の強化”のような、共同で行うリスクのマネジメントから焦点が外れた解答が見られた。設問文をよく読んで、解答してほしい。

プロジェクトマネージャとして、委託元と委託先とのより良い共創関係がもたらす価値に注目して行動してほしい。

問3

問3では、化学品製造業における障害の予兆検知システムを題材に、ステークホルダーのニーズを的確に把握し、適切なシステム開発のプロジェクトフェーズ及び開発アプローチを適切に設定して、ステークホルダーのニーズを実現する実践的なマネジメント能力について出題した。全体として正答率は平均的であった。

設問2(1)の正答率は平均的であったが、“ステークホルダーだから”という、プロジェクトマネジメントとしての目的を意識していないと思われる解答が散見された。プロジェクトマネージャ(PM)として、立ち上げの時期に全員がプロジェクトの目的を共有することの重要性を理解して解答してほしい。

設問3(2)の正答率は平均的であったが、プラントの特性を理解した交換・修理のノウハウの継承という点を正しく解答した受験者が多かった一方で、交換・修理の手順を模擬的に実施する機能の実装だけで機器類の障害の発生を防げると誤って解答している受験者も散見された。PMとして、システムを正しく機能させるための利用者の訓練の重要性を理解して解答してほしい。